

青年部・女性部

田舎民泊体験はいかがですか

都市住民との交流による地域活性化

大分県中津江村商工会女性部

過疎化対策に多様なプラン

大分県の中津江村といえば、二〇〇二ワールドカップ・サッカーの際、カメルーン選手団の到着を何日も待ち続け、明け方に選手がやっと到着したときに、村民あげて大歓迎したことが話題になったのを、記憶している方もいると思います。

あれから四年：大分県では全国的にも早い展開で市町村合併が進み、五十八あった市町村が現在十八市町村となつて、一段落ついたところです。私たちの地域（中津江村、上津江村）も、一昨年三月二十二日に旧六市町村が合併して新「日田市」が誕生しました。

日田市中津江村と上津江村は、合併以前から過疎化が進行していたのですが、合併後はますますそれが顕著となり、合併以前のなんと三倍近

いペースで過疎化が進んでいます。特に若い世帯の市中部への移住が多く、その主な理由としては、通勤の利便性、子供の教育環境などがあげられています。

このままでは地域の活力が失われていくだけではなく、そのうち、この地域に住む人間はいなくなるのではという危機的な話が、商工会の中でも頻繁に交わされていました。

そういう状況の中で、平成十八年度の県の施策で、商工会青年部・女性部が中心となり、地域住民を巻き込みながら、地域活性化の調査、研究を行う活動に対して一商工会当たり一〇〇万円をめどに助成する制度「商工会青年部・女性部地域活力増進事業」が創設されました。

もともと、旧中津江村と上津江村は隣接しているうえ、人口規模や地形、産業構造もほとんど同じであり、

商工会の事業にしても共同で行ってきた経緯がありました。

そこで、この事業に両商工会の女性部と青年部が共同で取り組むこととなり、提案する事業について協議を重ねました。その結果、意見集約されたのが、「都市住民との交流を図る事業」でした。

具体的には、都市住民に気軽に津江地域での生活体験をしてみよう民泊体験やホームステイ体験の受け入れ事業です。

まずは民泊体験を通して津江地域での交流や生活体験を重ねることによってこの地域のファンになつてほしい、将来的には、空き家や市営住宅を利用して移住してきてくれたら



熊本県天草市での先進地研修



田舎暮らし体験ツアーでの柚子コショウ作り体験



「夢をカタチに」ワークショップ風景

という願いを込めた事業です。

この事業計画がまとまった理由としては、①短期間で効果を期待できるような定住対策は難しい、②津江地域には、すでに新規就農の目的や、自然や人的な住環境が気に入ってこの地に移り住んできた人たちがおり、非常に元気よく、むしろ地域のリーダー的存在として地域住民を引っ張っていつてくれているという点がありました。

六月に県のほうから補助金交付決定の通知があり、悪戦苦闘しながらもやる気だけは満々で事業に取り組んでいます。

以下、今まで、取り組んできた事業について事業名とその内容を簡単に紹介させていただきます。

全国の過疎化で悩んでいる商工会の参考になれば幸いです。

* *

【田舎暮らしの良さ再発見のための講演会】五年前から中津江村に移住してきて、農業と食育、田舎暮らしの良さなどの執筆をしているフリーライターの方を講師とし、「民泊とはどういうものか、津江地域のどんなところを都市住民にアピールできるのか」などの勉強会を行いました。

この講演会には、民泊受け入れ可能な一般家庭や津江地域に移住して

きた人など、約五〇名が参加してくれました。

【夢を形にするためのワークショップ（三回開催）】都市住民に津江地域のどのような点をアピールすればいいのかという問題解決のため、私たち住民が自分たちの生活を見つめ直し、津江のよさを再発見、再認識するためのワーク・ショップを開催しました。

具体的には、豊かな自然や体験、食などを提案してもらい、どう具体化していくかの協議を行いました。

【農泊体験研修】二年前から農家民泊を始めている熊本県天草市五和町に二〇名で体験研修を実施し、農泊とはどのようなものなのか、どの程度の「おもてなし」なら自分たちにもできるのかなど、身をもって体験しました。

【田舎づくり講演会開催】広島県安芸高田市から講師を招き、行政依存型から脱却し、自主自立、提案型の地域づくりを行うための講演会を開催しました。

【田舎暮らし体験ツアーの受け入れ】二泊三日で都市住民を招いて田舎暮らしの体験ツアーを実施しました。具体的なメニューとしては、味噌作り、フルーッとマト収穫加工、柚子コショウ加工、空き屋見学、こ

んにゃく作り、芋ほり体験、民泊受け入れなどを行いました。

今、振り返ってみますと、今回の事業の中では最も重要で、今後役立つ事業だったと思います。

【ホームページ作成事業】今後は、全国にこの事業をアピールしていくツールとしてホームページを作成し、民泊受け入れ家庭の紹介や空き家情報、特産品案内、季節ごとの体験事業などを掲載する予定です。

そのほか、TBSニュース23の団塊の世代特集をはじめ新聞、テレビで数多く取り上げられたため、全国各地から移住希望や問い合わせが殺到し、すでに移住の決まった家族もあります。

●今後の課題

他の地区に比べてどんな特色をアピールしていくのか、どんな新鮮な体験を提供し続けられるのか、将来移住してきた人たちに對して、迎える側としてどんな環境整備をしてあげられるか（例えば地元住民連携の仕組みづくり）、どういう人たちを対象とするかなど、課題は山積みです。

とはいえ、いい方向での反響が大変大きく、何とかこの事業を軌道に乗せ、地域の活性化を図っていきたいものです。